

# ESD 的価値形成を図る伝統産業の授業開発

— 「堺打ち刃物」を教材として—

河野 崇

## I. はじめに

ESD は Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」と訳されている<sup>(1)</sup>。今、世界には環境問題をはじめ、貧困、平和、開発など様々な問題がある。ESD とは、これら現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動のことである<sup>(2)</sup>。

2014 年に「国連・持続可能な開発のための教育の 10 年」が最終年を迎えた。ESD 研究は、国際的には 1980 年代後半から 1990 年代初頭にかけて始まり、2000 年代以降、急速に発展した。国内では、1990 年代後半から持続可能な社会をめざす環境教育の提案や研究が始まり、2002 年以降に実践が急激に広がったことが報告されている<sup>(3)</sup>。2006 年には、「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」関係省庁会議によって、『我が国における「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」実施計画(以下、「ESD 実施計画」)』が決定され<sup>(4)</sup>、2014 年までの日本における ESD 推進の要として機能し、学校教育や社会教育において、各地で ESD が実践されてきた<sup>(5)</sup>。

学校現場では、ESD の視点を取り入れた教育を推進するため、『学校における持続可能な発展のための教育 (ESD) に関する研究』が 2012 年に発行された<sup>(6)</sup>。この研究では、視点整理型アプローチやチェックシート型アプローチに基づく実践を試み、その成果と課題について考察を行っている<sup>(7)</sup>。掲載されている実践例としては、中学校理科「新たなエネルギー資源のアイデアを考える」、高等学校「教科等を横断したエネルギー教育の実践」、高等学校国語科「次代のエネルギー問題を考える」など、主に環境分野での実践が多いといえる<sup>(8)</sup>。また、そこで示された「持続可能な社会づくり」の構成概念や重視する能力・態度などを参考にして、実施されている活動も少なくない<sup>(9)</sup>。

ESD の目標について、「ESD 実施計画」では次のように述べている<sup>(10)</sup>。

「環境，経済，社会の面において持続可能な将来が実現できるような行動の変革をもたらすことであり，その結果として持続可能な社会への変革を実現することです。」つまり，ESDの視点を取り入れた教育を行うことで，ESD的価値形成を図り，行動の変革をもたらしていく。そのことが，持続可能な社会の実現につながっていくのである。ESDを実践するには，環境面だけでなく，経済的，社会的な側面からの総合的なアプローチが必要であり，環境，経済，社会の関係性を考慮した取組が必要とされている<sup>(11)</sup>。永田は，環境，経済，社会に加え，文化について言及し，ESDの3本柱として，環境，経済，社会を置き，それを支える根っこの部分に文化を置いている<sup>(12)</sup>。中澤らは，永田のESDの文化面の主張に対して，環境に配慮した経済活動，社会活動を営むことが，持続可能な社会づくりに求められているとして，個人においても社会においても環境に配慮することが当たり前であるとする文化を，教育を通じて形成していくことがESDの役割であると述べている<sup>(13)</sup>。ESDに関して，文化面に言及したこれら2つの主張は，これまでのESD研究にはない新しさだといえる。

以上のことから，ESDの視点を取り入れた教育を行うために，次の3つのキーワードに留意する必要があるといえる。

- ①現代社会の課題を自らの問題として捉え，持続可能な社会づくりに向けて身近なところから取り組んでいく。【持続可能性】
- ②新たな価値観や行動を生み出していく。【価値観や行動の変革】
- ③環境，経済，社会に加え，文化の関係性を考慮した取組をしていく。【環境・経済・社会・文化的アプローチ】

こうしたESDの考えに基づき，本稿では伝統産業を教材として取り上げ，伝統産業分野の授業開発を行うことを目的とする。以下にその理由を述べる。

- ①伝統産業は日本が世界に誇る伝統文化であり，継承・発展を経ながら先人の努力や工夫を通して守り続けている。しかし，伝統産業の現状として，生産数や企業数の減少，従業員の高齢化，生産基盤（原材料，生産用具）の衰退・深刻化，生活者のライフスタイル・価値観の変化など，年々衰退する傾向が見られる<sup>(14)</sup>。伝統産業の持つ発展と衰退の現状を理解し，世界に誇る日本の伝統産業を持続可能なものにするために，課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出していくことは，ESDの目的と関係が深い。
- ②ESDの実践として環境，経済，社会的分野の実践は多く見られるが，文化的側面からの実践はほとんどなく，研究が進んでいない。
- ③伝統産業を教材として取り上げることで，市場の開拓，基盤の強化などの

環境的側面，生産数，販売数などの経済的側面，価値や魅力の発信などの社会的側面，技術の継承，革新などの文化的側面と，E S Dの対象となる様々な課題への取組をベースにしつつ，環境，経済，社会，文化の各側面から，学術的かつ総合的に取り組むことができる<sup>(15)</sup>。

伝統産業を教材として取り上げ，授業開発を行うことで，E S Dのキーワードである，持続可能性，価値観や行動の変革，環境・経済・社会・文化的アプローチの3点に留意しながら授業開発ができると考えている。複雑化する現代社会の課題を解決するためには，これまで培った価値観や行動では対応しきれない事柄が出てくる。新たな価値形成の必要性が指摘できる。E S D的価値とは，持続性を可能にする価値形成である。環境問題，貧困問題，高齢化社会など，近い将来，持続不可能な社会が到来しつつあることから，持続性を可能にする新たな価値観から行動に移すことのできる，持続可能な社会づくりの担い手が求められている。開発した授業を通して，持続性を可能にする価値形成を図り，行動の変革をもたらしていく。そのことが，持続可能な社会づくりの担い手の育成につながっていくのである。

本稿では，伝統産業の中で，「堺打ち刃物」を教材として取り上げる。他の伝統産業と同じように，「堺打ち刃物」も，生産数や企業数の減少，従業員の高齢化，生産基盤の衰退，生活者のライフスタイルの変化など，衰退の危機に瀕している現状がある<sup>(16)</sup>。開発授業の対象は小学生である。地域の身近な伝統産業である「堺打ち刃物」を教材として取り上げ，追究を行うことで，その刃物が持つ魅力や素晴らしさに気づき，刃物職人など，地域の人との交流を通して，身近な伝統産業である「堺打ち刃物」に対する誇りと愛情を育んでいきたい。そして，地域に代々受け継がれた伝統産業を継承，発展させていこうとする気持ちにつなげていきたい。一方，「堺打ち刃物」が抱える課題にも目を向けることで，その課題を自分ごととして捉え，課題解決に向けて，考え，行動する中で，持続性を可能にするE S D的価値形成を図っていききたい。

研究方法として，国立教育政策研究所が提示したE S Dの6つの構成概念を参考にしながら，本稿で扱うE S Dの構成概念を整理し，E S D的価値についてまとめる。そして，地域の身近な伝統産業である，「堺打ち刃物」についてその概要をまとめ，教材的価値を明らかにする。「堺打ち刃物」を教材として授業開発をすることで，本稿でまとめたE S Dの構成概念と「堺打ち刃物」との関係を整理し，E S D的価値形成を図る開発授業を提案する。

## Ⅱ．E S D の構成概念と E S D 的価値

### (1) E S D の構成概念

E S D の構成概念とは、人と社会のつながりに見られる「相互性」「多様性」「有限性」、人と人のつながりに見られる「連携性」「責任性」「公平性」のことである。

まだまだ E S D が学校現場に浸透していないという意見も聞かれることから、「E S D（持続可能な開発のための教育）推進の手引き」が平成 28 年 3 月に作成された。この手引きは、これまで E S D について知らない、指導方法が分からない先生方に対して、E S D の大切さや、学校での E S D の具体的な実践方法などを伝えることを目的にしている<sup>(17)</sup>。手引きは、E S D の推進に向けて、次のような提言をしている。「どのような教育の在り方が必要なのかを共に考え、実践を通して共有していく教育改革の営みそのものが E S D の原点です<sup>(18)</sup>。」つまり、E S D の理念に沿った教育を進めるためには、絶えず教育の在り方を考え、実践を通して共有していく取組が必要である。このような教育の過程の中で、どのような資質・能力が育成されているのか、その育成のためにどのような教育を行っていけばよいのかを考え、改善していくことが求められているといえる。では、こうした E S D 教育を進めることで、どのような構成概念の理解を深めることができるだろうか。このことに関して、「E S D（持続可能な開発のための教育）推進の手引き」は次のように述べている<sup>(19)</sup>。「国立教育政策研究所が提示した 6 つの構成概念（例）も参考とし、自分が行っている授業が、これらの構成概念のうちでどの概念の理解を深めるものとなっているかを考えることが、E S D を実践していく上で手がかりとなります。」国立教育政策研究所は E S D の構成概念として、多様性、相互性、有限性、公平性、連携性、責任性の 6 つの構成概念を示している<sup>(20)</sup>。本稿では、E S D で重視される 6 つの構成概念、「相互性」「多様性」「有限性」「連携性」「責任性」「公平性」を単元で扱う「学習内容」と考えた。構成概念の理解を深めるといってもその方向性を示すことは難しい。構成概念を学習内容と捉え直すことで、学習内容の理解を図ることがつまり、構成概念の理解へとつながっていくのである。そして、この 6 つの概念を大きく「人と社会のつながり」「人と人のつながり」の 2 つに分類し、捉えることにした。中澤らは、E S D で育てたい価値観について、人と環境との関係、人と人との関係にまとめ整理している<sup>(21)</sup>。人と環境との関係については、経済活動や社会生活において環境問題を考えていくことは、持続可能な社会づく

りの観点からも大切な視点である。本稿で扱う社会は、環境・経済・社会・文化と、より大きな社会の枠組みで捉えることにする。人と人との関係については、過去の人たちへの感謝，将来世代の人に対する責任，先人が築いてきた社会の継承，次世代に発展して伝えていくことなど，人と人とのつながりが持続可能な社会づくりの橋渡しとなる。

人と社会，人と人とのつながりなど，よりよい未来社会の構築に向けて，つながりを尊重した学習を進めることで，人と社会とがつながりを持ちながら，よりESD的教育を進めることができるといえる。そして，伝統産業との関連を考慮して，6つの構成概念を，「Ⅰもの・ひとのつながり（相互性）」「Ⅱ多様な価値観（多様性）」「Ⅲ限りある自然環境（有限性）」「Ⅳ他との協力（連携性）」「Ⅴ未来をつくる私たち（責任性）」「Ⅵ公平な社会（公平性）」の6つにまとめ，次の表のように内容を整理した。

表1：伝統産業で扱うESDの構成概念

【人と社会のつながり】 環境・経済・社会・文化の仕組みやつながりを理解し，良い点と改善すべき点を把握した上で，より良いシステムを構築しようとする。	Ⅰ もの・人のつながり (相互性)	他の地域の伝統産業と比較しながら，地域の伝統産業の工夫や努力を整理していく。
	Ⅱ 多様な価値観 (多様性)	友達や他者の意見を尊重し，多様な価値観の存在を認めていく。
	Ⅲ 限りある自然環境 (有限性)	伝統を守り，受け継ぐための保全方法について考えていく。
【人と人のつながり】 人のつながりの大切さを感じ，新たなシステム作りに向けて責任感を持ち，互いに尊重し協力していこうとすることを育成すること。	Ⅳ 他との協力 (連携性)	地域講師との交流や，追究活動やPR活動において他者と協力をしていく。
	Ⅴ 未来をつくる私たち (責任性)	地域の伝統産業が，未来においてより発展できるようなアイデアを考えていく。
	Ⅵ 公平な社会 (公平性)	次の世代に伝統産業が引き継がれていくように後継者問題を考えていく。

次に，資質・能力について，「ESD（持続可能な開発のための教育）推進の手引き」では次のように述べている<sup>(22)</sup>。「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の例として，批判的に考える力，未来像を予測して計画を立てる力，多面的・総合的に考える力，コミュニケーションを行う力，他者と協力する力，つながりを尊重する力，進んで参加する態度の7つがあるが，この7つを参考にしながら，地域の実情や児童・生徒の発達段階に応じて，取捨選択したり，アレンジを加えたりしていくことが有効である。」中

澤らは、ESDで育てたい資質・能力について、国立教育政策研究所の例示とOECDのキーコンピテンシー、ドイツのトランスファー2をもとに検討し、社会的に異質な集団での交流、自律的に活動すること、道具を相互作用的に用いること、尊重することの4つのカテゴリーに分類し、その具体的な内容について整理している<sup>(23)</sup>。社会的に異質な集団での交流とは、他者とうまくかかわる力や協力する力など、他者と円滑にコミュニケーションを行うことである。自律的に活動することとは、大きな展望を持つことや、人生計画を設計し、実行するなど、自分が思い描く将来の実現に向けて行動することである。道具を相互作用的に用いることとは、知識や情報、技術を相互作用的に活用するなど、物事を相互に関係づけて考える力のことである。尊重することとは、つながりを尊重する態度のことである。中澤らのまとめを参考にしながら、小学生の発達段階も踏まえ、伝統産業分野で育てたい資質・能力について、次の5つにまとめた。事実を的確に把握する力、物事を関係付けて考える力、解決策を考える力、コミュニケーションを行う力、行動しようとする力の5つである。なお、設定した5つの資質・能力と伝統産業との関わりについては、IV章、ESD的価値形成を図る伝統産業の授業計画、(1)「堺打ち刃物」の授業目標において詳しく述べる。

## (2) ESD的価値

ESD的価値とは、持続性を可能にする価値形成である。伝統産業の現状として、需要が低迷し、生産額は減少、従業員の高齢化、生活様式の変化に伴う新しいニーズへの対応の遅さなどから、持続可能が難しい現状が垣間見える。一方、職人の匠の技や高い技術、質の高い作品は、後世に残していきたい大切な伝統であり、未来に残していきたい日本の文化である。伝統産業を持続可能な産業としていくためには、伝統産業が持つ良さや素晴らしさを認識し、問題点を把握した上で、課題を解決するための解決策を考えていくことが必要になる。こうした過程を経ることで、単なる知識・理解に留まらず、児童・生徒の主体的な学びや活動を促し、環境、経済、社会、文化と、それぞれの側面から学術的かつ総合的に学習を進めることができる。そして、伝統産業の課題を自らの問題として捉え、自分には何ができるのかを考え、行動していくことは、持続可能な社会を創造していく素地につながるといえる。伝統産業を教材して取り上げ、授業開発を行うことで、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育について、その方向性を提案できるのではないかと考えている。

### Ⅲ. E S D 的価値形成を図る伝統産業の授業構想

#### (1) 「堺打ち刃物」の概要

「堺打ち刃物」とは、昔から代々続く大阪府堺市を代表する伝統産業である。堺市には、数多くの御陵・古墳があり、5世紀には、古墳群をつくるための道具を製造する人々が集団をつくり、鍛冶技術が発展する基礎ができたといわれている。特に、16世紀にポルトガルよりタバコが伝わったときには、タバコの葉を刻む「タバコ包丁」が大量に必要になり、堺で初めてタバコ包丁がつくられるようになった。堺刃物のルーツは「タバコ包丁」である。昭和57年3月に、通商産業大臣より「伝統的工芸品」に指定されており、特に職人用の包丁のほとんどが堺製といわれている。業務用（プロ用高級品）においては90%以上のシェアをほこる<sup>(24)</sup>。

分業制（鍛造、研磨、柄付け）が「堺打ち刃物」の特徴である。「堺打ち刃物」組合は、堺利器卸協同組合（問屋32社）、堺刃物工業協同組合（鍛造20社）、堺刃物協同組合（研磨31社）、堺利器工業協同組合（鋏・作業工具10社）の4つの組合で、堺刃物商工業協同組合連合会を組織している。堺打ち刃物伝統工芸士会があり、ふるさと体験交流事業等の伝統補助事業を行っている<sup>(25)</sup>。「堺打ち刃物」の現在の現状を見てみると、他の伝統工芸品と同じように次のような課題がある。伝統工芸士会員の年齢構成は、2011年11月現在、50歳代が2人（8%）、60歳代が13人（52%）、70歳以上が8人（32%）と50歳以上の従事者の割合が92%と高齢化が進んでいること。弟子になりたいという人がいるが、独立できるだけの需要がないこと。工場の立地が難しいこと。生産額・企業数・従事者数とも年々どんどん減っていることなどの課題がある<sup>(26)</sup>。つまり、「堺打ち刃物」は良さと問題点の両面を抱えている産業であるといえる。「堺打ち刃物」は、昔から堺市に続く伝統産業であり、代々大切に受け継がれている。しかし、生産数、販売数、後継者不足など、衰退の危機に瀕している現状がある。地域の身近な伝統産業の素晴らしさを認識し、「堺打ち刃物」を持続可能な産業にしていくために、考え、行動していく過程の中で、伝統産業が抱える課題を自分ごととしてとらえ、課題解決に向けて主体的に学習する姿が見られることを期待したい。そして、こうした教材的価値のある「堺打ち刃物」を取り上げて授業開発をすることで、E S Dの理念に沿いながら、E S Dの構成概念や資質・能力との関連を踏まえて、伝統産業分野での授業開発を行っていききたい。

## (2) 「堺打ち刃物」の授業構想

「堺打ち刃物」の開発授業構想は次の通りである。

E S D 的価値形成を図る授業開発を行うために、伝統産業を持続可能な開発のための教育という観点で捉え直してみる。伝統産業を持続可能なものにしていくためには、まずは伝統産業の魅力をしっかり把握することが大切である。伝統産業の持つ良さや素晴らしさを把握してこそ、それを継承し発展させていきたいという気持ちが生まれてくるものである。そして、良さや問題点を把握した上で、将来にわたって継承・発展させるための方法を考えていくことで、より良い未来を築くための、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育を展開できるといえる。【伝統を愛す】とは、伝統産業の現状を追究する中から、伝統産業の良さを具体的につかみ、それを誇りに感じながら、将来にわたって大切に継承していこうとすることである。【より良い未来を築く】とは、伝統産業の未来の展望について、良さと問題点を把握した上で改善策を考え、その実現へ向けて動き出そうとすることである。そして、伝統を愛し、より良い未来を築いていくためには、「事実を把握する段階」と「改善策を考え行動する段階」の2段階が必要であると考えた。さらに、中澤らのまとめを参考にしながら、それぞれの段階で育みたい力と関連づけ、以下の図のように整理した。

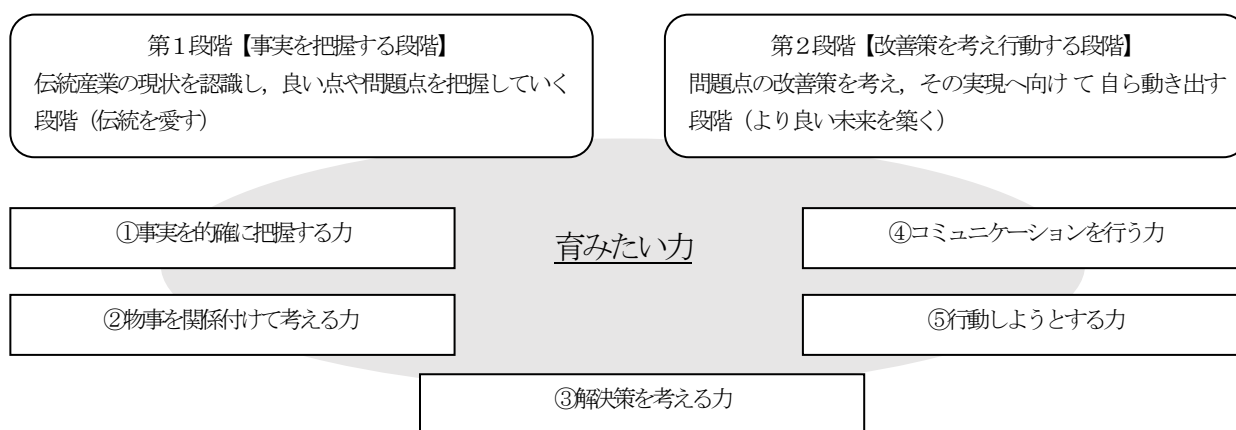


図1：開発授業と育みたい力との関係

こうして開発した授業とE S Dの構成概念との関連について述べる。

伝統産業を持続可能な産業にするためには、伝統産業の魅力をしっかり把握する必要がある。地域の伝統産業である「堺打ち刃物」との出会いを通して、職人の高い技術や匠の技の素晴らしさ、精度の高い作品を目の当たりにし、誇りに思う気持ちを持たせていく。また、地域講師との交流により、「堺



打ち刃物」が抱える課題にも目を向けて、伝統産業が抱える課題を自分ごととして捉えさせていく。こうした学習を通して、他者と連携、協力しながら課題解決に向けて動き出そうとする主体的な学びを進めていきたい。

調べる段階では、いろいろな諸資料を比較、分類、整理し、「堺打ち刃物」が多くの料理人に愛用される秘密をつかんでいく。一方、多くの伝統産業と同じように、衰退という持続不可能な現状も垣間見える。良さと問題点の両面を抱える伝統産業の現状を理解し、なぜこんなにも素晴らしいものが衰退の危機に瀕しているのだろうと疑問を持たせていきたい。公平性とは、世代間の公平を尊重する構成概念である。伝統産業に携わっている人との交流を通して、「堺打ち刃物」が抱える課題の1つである後継者問題に目を向けることで、「堺打ち刃物」が世代間に公平に引き継がれていくための後継者問題を考えさせていきたい。

教師が、「衰退させないためにどんなことができますか」と発問することで、「堺打ち刃物」を維持・発展させるための保全方法を考えていく。「堺打ち刃物」が抱える課題について、環境、経済、社会、文化の各側面から、総合的に解決策を考えることで、資源の有限性や発展性の限界、伝統を守り、受け継ぐための保全方法について考えさせていきたい。教師が、「他市の取組を参考にして、堺市はどんなことをしていけばよいのでしょうか」と発問することで、他市の取組を参考にしながら、より具体的な解決策を考えさせていきたい。話し合い活動では、他市の取組を比較、検討していく中で、未来に発展できるようなアイデアを考え出していく。他市の取組で取り入れたい工夫、堺市が今までしていない取組、取り入れることの効果などを話し合い、より良い解決方法を考えさせていく。こうした学習を通して、将来に対して責任を持ちながら、地域ごとの相互の関わり、つながりを理解させていきたい。

「堺打ち刃物」を衰退させないための方法について話し合う中で、友達の意見を尊重したり、自分とは違う立場の考えを受け入れたりする。自分が考えた解決案を友達に分かりやすく説明したり、友達の意見を受け入れたりする中で、多様な価値観を尊重する態度を育てていきたい。意見交流では、多様な意見や価値観を受け入れ、寛容的な気持ちで解決策を考えることが不可欠である。みんなで決めた解決策を実際に行動に移すことで、持続可能な社会づくりの担い手の育成につなげていきたい。

なお、本開発授業は、社会科ではなく総合的な学習の時間において取り扱う。伝統産業分野の授業は主に社会科である。しかし、ESD教育を進めるためには、環境、経済、社会、文化と、各側面から学術的かつ総合的に取り

組む必要があり、教科横断的に学習を進めることができる総合的な学習の時間が望ましいと考えた。

#### IV. ESD 的価値形成を図る伝統産業の授業開発

##### (1) 「堺打ち刃物」の授業目標

本単元の目標は次のように設定した。

「伝統産業を追及する学習を行うことで、より良い未来社会の構築に向けて、新たな価値観や行動を生み出し、持続可能な社会づくりの担い手としての素地を養う。」

そして、この目標に関連する下位の指導目標は以下の通りである。

- ・「堺打ち刃物」の良さや問題点を把握しながら、「堺打ち刃物」の現状を正しく理解することができる。(事実を的確に把握する力)
- ・「堺打ち刃物」が多く料理人に愛用される理由について、様々な観点から考えることができる。(物事を関係づけて考える力)
- ・堺市と他市の取組を見比べながら、「堺打ち刃物」が抱える課題への有効な解決策を考えることができる。(解決策を考える力)
- ・立場の異なる意見を尊重し、自分の思いや考えを友達に分かりやすく伝えることができる。(コミュニケーションを行う力)
- ・「堺打ち刃物」を持続可能な産業にするために、自分たちができることを考え、行動することができる。(行動する力)

上記の指導目標に対する評価基準は次の通りである。

- ・「堺打ち刃物」の現状について正しく理解することができたか。
- ・「堺打ち刃物」が愛用される理由について、様々な観点を関係付けて考えることができたか。
- ・「堺打ち刃物」を持続可能な産業とするための解決策を考えることができたか。
- ・他者と適切にコミュニケーションを行うことができたか。
- ・「堺打ち刃物」が抱える課題の解決に向けて、主体的に活動することができたか。

前述のように目標、指導目標、評価基準を設定した理由を述べる。第1に、学習に主体的に取り組むためには、まずは「堺打ち刃物」の魅力をしっかり把握する必要がある。「堺打ち刃物」の良さと共に、「堺打ち刃物」が抱える課題にも目を向けることで、良さと問題点が共存する「堺打ち刃物」の現状を理解し、「堺打ち刃物」を持続可能な産業とするために、主体的に学習に取

り組むことができる。第2に、「堺打ち刃物」が多くの料理人に愛用される秘密を探るためには、様々な観点から調べ、物事を関係づけて考える必要がある。第3に、「堺打ち刃物」が抱える課題を解決するためには、堺市の取組の検討、他市との比較、解決策の分類、整理など、有効な解決策を考える必要がある。第4に、解決策に向けた話し合いでは、他者と円滑にコミュニケーションを行う力が不可欠になる。第5に、「堺打ち刃物」を持続可能なものにするために、自分たちができることを考え、行動していくことは、持続可能な社会づくりの担い手の育成につながっていくといえる。

## (2) 学習過程

学習過程は大きく2つの段階を設定した。第1段階の事実を把握する段階では、つかむ、調べる学習場面を設定し、第2段階の解決策を考え行動する段階では、課題設定、課題解決、行動化の学習場面を設定した。第1段階のつかむで、「堺打ち刃物」との出会いを通して、地域の身近な伝統産業を知り、その魅力をしっかり把握することで、学習への意欲を持たせていく。調べるでは、書籍や資料、職人との交流、作業体験などを通して、「堺打ち刃物」が多くの料理人に愛用される秘密を探っていく。「堺打ち刃物」に関わる課題について、人との交流を通して明らかにした後、第2段階の課題設定、課題解決で、課題について把握、分類、整理し、課題解決の方法を考えていく。行動化では、課題解決に向けて、自分たちができることを考え、行動に移していく。そして、それぞれの学習場面で育みたいESDの構成概念と資質・能力との関連を踏まえ、次の表のように整理した。

表2：単元計画 全12時間（ ）の数字は時間数

段階	次	場面	学習内容	教材・教具	構成概念	資質・能力
第1段階 事実を把握する 段階	1 (1)	つかむ	「堺打ち刃物」との出会い 魅力や素晴らしさの把握 多くの料理人が愛用 学習問題の設定	「堺打ち刃物」 普通の包丁 野菜、果物		事実を的確に把握する力
	2 (4)	調べる	「堺打ち刃物」について調べる 書籍、インターネット、資料、会館訪問、職場見学、質問、インタビュー、意見	書籍、インターネット 資料	相互性 多様性 連携性	物事を関係付けて考える力

			交流，良さと問題点の把握			
第2段階 解決策を 考え行動 する段階	3 (2)	課題 設定	課題の把握 課題の分析	伝統産業の 課題一覧表	連携性 公平性	コミュニケ ーションを 行う力
	4 (2)	課題 解決	課題解決方法の立案 堺市の取組，京都市の取組 の比較 意見交流	堺市の取組 表 京都市の取 組表	相互性 多様性 有限性 責任性	解決策を考 える力
	5 (3)	行動化	自分たちができること まとめ		多様性 連携性	行動しよう とする力

第1段階【事実を把握する段階】のつかむは、「堺打ち刃物」との出会いの場面である。「地域の伝統産業について知っているものはありますか」と発問すると、「堺打ち刃物」は何人かの子どもから出てくることが予想されるが、その特徴について具体的に知っている子どもは少ないであろう。そこで、「堺打ち刃物」作業体験教室を利用して、堺打ち刃物に直接触れる機会を設け、興味、関心を持たせる。家庭にある包丁と比べて、精工な作りで、色つやなど、その違いに気付くであろう。野菜や果物を実際に切って切れ味を確認してみると、その切れ味に驚きの声があがるであろう。

「堺打ち刃物」は堺市の身近な伝統産業であることを紹介し、日本の多くの料亭ではこの「堺打ち刃物」を使って調理をしており、業務用包丁のシェアが90%以上と、多くの料理人に使われている。「どうして『堺打ち刃物』は多くの料理人に愛用されているのでしょうか」と発問すると、子どもたちはこれまでの生活経験を基に予想を考えるであろう。問いについて予想をさせた後、調べる活動に移行する。

調べるでは、「堺打ち刃物」について、書籍やインターネットなどで調べ、料理人に愛用される秘密を探っていく。職人の高い技術、鍛冶や研ぎなどの複雑な製造工程、職人の努力や工夫、組合や分業体制、職人の思いなどを把握していく。調べたことについて意見交流をした後、さらに追究したいことや疑問点が浮かび上がってくるであろう。そこで、堺伝統産業会館を訪問し、体験学習を行う。この会館は、堺市の伝統工芸品について学ぶことができる施設であり、展示品を見たり、職員の方のお話を聞いたりして学びを深めていく。また、実際に堺打ち刃物職人の作業場を見学させてもらい、インタビューをして追究を深めていく。こうした体験学習を通して、職人包丁のほと

んどが堺製であることから分かるように、「堺打ち刃物」は品質がよく、切れ味が抜群であり、多くの料理人に愛用される秘密を学んでいく。そして、堺市に代々続く伝統産業であることを理解し、「堺打ち刃物」を誇りに思う気持ちを持たせていきたい。

しかし、多くの伝統工芸品が直面する課題と同様に、「堺打ち刃物」も、生産数、企業数、従業員数とも年々どんどん減ってきており、職人の高齢化や後継者不足、小規模経営が多いことなどから衰退の危機に瀕している現状がある。書籍やインターネット、体験学習で学んだことを学級全体で交流した後、『堺打ち刃物』についてどう思いますか」と聞いてみると、すごい、誇りに思うなどの意見が出てくるであろう。そこで、「この『堺打ち刃物』は、ある問題に直面しています。どんな問題でしょう」と発問する。伝統産業に潜む課題に意識を向けた後、「堺打ち刃物」職人のYさんの話を聞く。生産数の減少、経営状態、後継者問題など、「堺打ち刃物」が抱える課題について話を聞いた後、「Yさんは衰退してしまうと言っていますが、このままなくなってもいいですか」と発問する。これまでの学習を通して、「堺打ち刃物」の良さや素晴らしさを把握している子どもたちは、衰退させてはいけないという気持ちを持つであろう。そこで、「どうしたら続けていくことができますか」と発問し、課題の解決策を考える段階へとつなげていく。

第2段階【解決策を考え行動する段階】の課題設定では、良さと問題点をきちんと把握することが必要である。これまでの学習を通して学んだ「堺打ち刃物」の良さと問題点を確認した後、『堺打ち刃物』を衰退させないために、どのような方法が考えられますか」と発問する。行政の補助や支援、後継者の育成、PR活動など様々な意見が出てくるであろう。しかし、こうした解決策は堺市ですで行われていることが多い。堺市ではすでに、次のような取組をしている<sup>(16)</sup>。組合への支援として、地場産業振興補助金、伝統産業会館建設補助、販売開拓、イベントの開催。事業者への支援として、アドバイザー、業界、研究機関などによる研究会を設置、大阪地域創造ファンド事業。後継者育成の支援として、堺市ものづくりマイスター制度、伝統産業後継者育成事業補助金。情報発信として、ツアーオブジャパン堺ステージ、伝統産業広報誌作成、広域PR、などである。

しかし、堺刃物商工業（協）連合会の加入事業者が平成10年189だったものが平成20年には95に減少、生産数は平成12年492640から平成18年428000（単位：丁）と大幅に落ち込み、出荷額は平成12年1368から平成18年1186（単位：百万円）と年々減っている<sup>(17)</sup>。有効な解決策を考える必要がある。

そこで、伝統産業を維持・発展させている地域の事例を紹介し、課題解決の参考にしていくことにする。「ある地域では、様々な振興政策を実施し、その地域の伝統産業は今でも維持・発展を続けています。どこの地域だと思いますか」と聞く。おそらく京都という地名は出てくるであろう。京都では、世界に誇る京都の伝統産業を維持・発展させるために様々な取組をしている。京都の取組を参考にして課題解決の手がかりにしていくことにする。

課題解決では、京都において、伝統産業を維持・発展させるために、次のような条例に基づき施策を講じていることを紹介する。日本の文化を世界に発信し、伝統産業の未来を切り開くための条例として、「伝統産業活性化条例」が平成17年10月15日に施行され、この条例に基づき、伝統産業の活性化の推進の指針となる計画（平成18年度～平成23年度）が策定された<sup>(18)</sup>。そして、4つの基本理念と6つの基本的な施策を講じている。「こうした京都の取組で参考にできるものはありますか」と発問し、有効な解決策を考えていく。考えた意見を交流した後、「出された意見の中から自分たちができることは何がありますか」と発問し、自分たちでもできる解決策を考え、行動に移していく。

行動化では、自分たちでもできる解決策を考え、実際に行動をしていく。ESDを推進するためには、社会にある課題を身近な問題として捉えて、主体的に学習に取り組むことが大切である。地域の伝統産業である「堺打ち刃物」を追及することによって、その良さや誇りに思う気持ちから、伝統産業を持続可能なものにしていくために、課題解決に向けて、主体的に行動をしていく姿を期待したい。なお、具体的な授業展開については紙幅の関係で省略した。

## V. おわりに

本論文では、これまでのESD研究の概要、構成概念や資質能力を整理し、伝統産業の中で、「堺打ち刃物」を教材として取り上げ、伝統産業分野における、ESD的価値形成を図るための授業開発をした。ESDとの関連を踏まえ、開発した授業の特徴として次の2点を挙げることができる。1点目は、地域の身近な伝統産業である「堺打ち刃物」の教材的価値を明らかにしたことである。発展と衰退の両面を抱える伝統産業の現状を理解し、伝統産業を持続可能なものにするために、解決策を考え、行動していく中で、ESDの理念に沿いながら学習が展開できることを示した。また、「堺打ち刃物」と同じ

ように、地域の身近な伝統産業を教材として取り上げることで、本稿で示した開発指針に沿いながら、E S D 的価値形成を図るための授業開発ができると考えている。

2点目は、E S D の構成概念や育成したい資質・能力と伝統産業との関係を踏まえて授業開発をしたことで、伝統産業を追究することで育まれるE S D の構成概念や資質・能力を具体的に示し、E S D 的価値を明らかにすることができた。以上のことから、伝統産業分野におけるE S D 的価値形成を図る授業開発として、その提案を行うことができたと考えている。今後は、開発した授業を実践にかけ、成果と課題を明らかにしていきたい。

※本論文は、2016年日本教科教育学会第42回での研究発表をもとに加筆修正したものである。

#### 【註】

1) 文部科学省「持続可能な開発のための教育（E S D : Education for Sustainable Development）」(2013) 日本ユネスコ国内委員会

<http://www.mext.go.jp/unesco/004/1339957.htm> (2017年8月1日閲覧)

2) 前掲 1)

3) 二ノ宮さち・阿部治『国連・持続可能な開発のための教育の10年（D E S D）を通じた国内の環境教育研究・実践における成果と今後の課題』（2014）環境教育，Vol. 24, No3，pp. 19-20

4) 「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議『我が国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画』（2011）

5) 後藤田洋介・中澤静男『「持続可能な社会づくり」の構成概念とE S D の視点に立った学習指導で重視する能力・態度に関する一考察－実践事例の抽出による考察－』（2016）奈良教育大学紀要，65巻，1号，pp. 169

6) 国立教育政策研究所教育課程研究センター『学校における持続可能な発展のための教育（E S D）に関する研究最終報告書』（2012）

7) 前掲 6) pp. 2

8) 前掲 6) pp. 3

9) 前掲書 5) pp. 170

10) 前掲 4)

11) 前掲 1)

12) 永田佳之「持続可能な未来への学びE S D とは何か」五島敦子・関口智子編『未

- 来をつくる教育 E S D - 持続可能な多文化社会をめざして - 』(2010) 明石書店,  
pp. 101-103
- 13) 中澤静男・田淵五十生『E S D で育てたい価値観と能力』(2014) 奈良教育大学  
教育実践開発研究センター研究紀要, 第 23 号, pp. 67
- 14) 経済産業省「伝統的工芸品産業をめぐる現状と今後の振興施策について 資料 7」  
(2008) 経済産業省製造産業局伝統的工芸品産業室, pp. 8-9
- 15) 前掲 1)
- 16) 前掲 14) pp. 3
- 17) 文部科学省『E S D (持続可能な開発のための教育) 推進の手引き(初版)』(2016)  
日本ユネスコ国内委員会, pp. 2
- 18) 前掲 17) pp. 3
- 19) 前掲 17) pp. 6
- 20) 前掲 17) pp. 6
- 21) 前掲書 13) pp. 67
- 22) 前掲 17) pp. 6
- 23) 前掲書 13) pp. 72
- 24) 堺伝統産業会館ホームページ「堺の伝統産業 刃物」  
[www.sakaidensan.jp/knife](http://www.sakaidensan.jp/knife) (2017年8月10日閲覧)
- 25) 北出芳久『大阪の伝統的工芸品産業の現状と課題』(2013) 産開研論集, 第 25  
号, pp. 57
- 26) 前掲書 25) pp. 57